移住・起業者　インタビュー

◆ 恵那市　　ちいさな庭
大橋　友美子さん　淳史 さん

愛知県名古屋市出身。高校卒業後、進学で東京へ。美術大学を卒業後、東京の飲料・ 酒類メーカーにデザイナーとして約10年勤務。商品開発やデザインディレクションを仕事としていました。忙しくしつつも安定した日々。一方で、済中心の社会にどうしても違和感を感じモヤモヤとする中、2018年の初夏に夫と知り合います。そして、知り合って数か月後には移住と就農（と結婚）を決断。夫の勤務地が愛知県だったので、愛知・岐阜にて事業地を探し、1年半ほどの準備を経て、2020年1月に恵那市へ移住。そこからさらに1年、農地の準備や開業準備、店舗兼住居を建設し、2021年春から本格始動。

◆ 起業のきっかけは？

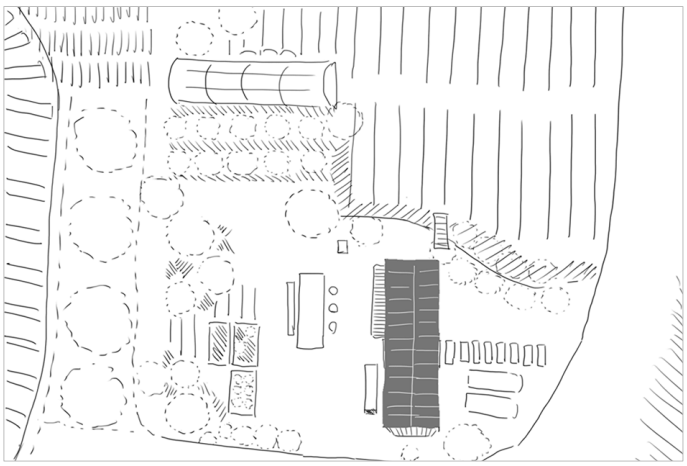
夫は環境学を学んできた人なので、「持続可能な地球環境」「生物多様性」がテーマとしてあり、独立してそのための活動や地域に根差した暮らしをできないかと模索しているところでした。私はといえば、「センスオブワンダー」「その土地だからこそ生まれる造形物や文化的活動（民藝や民話、文化人類学）」といったことに興味をもっていたので、「里山生活」や「農業」が急浮上したのでした。唐突にも思えますが、自分たちとしては「これしかない！」という勢いで今に至ります。

◆ どのような事業をされていますか？

約10アールの農地付き古民家を購入し、耕作放棄地の再生から取り組んでいます。基本的にオンラインでの直接販売を主としています。家は住居兼店舗へ建て直し、農作物の販売やワークショップ、トークイベントなど行える場をつくりました。農地はさらに20アールを近隣でお借りし、年間約30品目の少量多品目、無農薬・無化学肥料での栽培を行っています。恵那市山岡町の風土を活かした乾物品の加工販売も行っています。将来的には、私たちのような小さな農家が増え、地域としての里山環境保全につながるといいなと思っています。

◆ 活用された補助金は？

「岐阜県地域課題解決型起業支援金」のほかには、「移住支援金」を活用しました。移住前から起業支援金の存在は知っていましたが、そういった補助金の申請は初めてでしたので、岐阜県産業経済振興センターへ問い合わせをしたのが始まりです。書類の作成から事業計画まで、コーディネーターの方から何度も丁寧にアドバイスいた だき、なんとか申請までたどり着きました。

◆ 移住・起業を検討されている方々へのアドバイス

移住して知り合いもいない中、いきなり新しいことを始めるのは大変なことだと思いま す。私たちは購入した古民家を建て直している間の1年と少しの間、耕作放棄地の再生のために愛知県の賃貸アパートから毎週末通っていました。そのうちにご近所の方とも交流することができ、実際に住み始める頃には皆さんに助けていただきながら、生活をスタートすることができました。農地をお借りするのも、話しやすかったです。住み始める前に、知り合いを増やしておけると安心です。